

第6章 環境をみんなで守り育てる 活力あふれるまち(協働)

第1節 環境学習の推進

1. 概要

私たちは環境の中で生き、その恵みを受けながら経済的、社会的、文化的な活動を営んでいます。他方、こうした活動から発生する環境負荷の積み重ねが様々な環境問題を引き起こしています。

身近な生活環境から地球環境まで、良好な環境を守り、未来に引き継いでいくためには、私たち自身が、家庭や地域、職場、市民活動の中で、環境の保全及び創造に取り組んでいかなければなりません。

本市では、市民一人ひとりの環境に対する意識を高め、自発的な環境活動への参加を促すため、環境学習を実施するとともに環境学習の活性化のため、教材づくりや地域で活動するリーダーの育成などの体制の整備に取り組んでいます。

2. 環境学習の実施

人間と環境とのかかわりに関することや社会の営みが生み出す環境負荷について学習することで、環境問題への理解を促進します。

また、環境学習が単に知識の習得や理解で終わらず、学んだことを自らの行動へとつなげることを目指して、生活への活用や応用方法などの学習の場を提供していきます。

(1) 学校での環境学習

市内の学校では、各教科や総合的な学習の時間で、地域の自然や特性等を生かした環境学習に取り組んでいます。

また、学校教育活動の中で、児童生徒の環境意識を向上させ、実践力を身につけさせることを目的に、学校版環境ISO認定事業が実施され、平成25年度までに、市内の小・中・特別支援学校全56校が認定を受けました。

①クールアースいちかわ

地球環境の大切さを再確認し、省エネ等の取り組みを推進するため、市域全体で取り組む「クールアースいちかわ」について、市内全小学校においてポスターの掲示を行い、児童と児童を通じて保護者への取り組みを促しています。

②「未来ノート」による出前授業

地球温暖化問題の理解を深め、その対策として「自分たちに何が出来るのか」という気付きを促すため、環境学習プログラム「未来ノート」を活用し、小学4年生を対象に、出前授業を行っています。

平成30年度は7つの小学校17クラスを対象に授業を実施しました。

(2) 市民への環境学習

資料 6-1-1 (P. 179~180)

多様な世代の市民に、環境学習に親んでもらうために、取り上げるテーマや開催日などに工夫して、環境学習の機会を提供しています。

また、次世代を担う子どもが環境学習を始めるきっかけとなるよう、自然の中で遊んだり、体験する場を提供するとともに、自由に学びたいテーマに取り組むことへのサポートを行っています。

①自然環境講座

子どもから大人まで幅広い世代が市川市内の自然環境へ関心を持つきっかけを提供し、自然環境保全の担い手となる市民を養成する講座として、「自然環境講座」を開催しています。この講座では実際に現地の自然環境を訪ね、身近な自然から生物多様性について考えられるようなプログラムを用意しております。平成30年度は4回開催し、参加者は延べ48名でした。

②いちかわこども環境クラブ

いちかわこども環境クラブには、地域で環境学習や実践的な活動を行っている子どもたちを中心としたグループが加入しており、市では、その活動を支援するため、環境情報や環境学習の場を提供しています。

平成30年度は、21グループ219人が登録し、行徳鳥獣保護区にてカニの観察会、三番瀬の干潟観察ツアー、梨狩り体験などを行いました。参加者は延べ123人でした。



三番瀬の干潟観察ツアー



梨狩り体験

③体験学習事業（農業・稲作体験）

農業・稲作体験事業は、通称「米っ人くらぶ」と呼ばれ、市民に親しまれている事業です。自然や人とふれあい、勤労と収穫の喜びを体験し、暮らしと環境との関わりについて学ぶことにより、心豊かな子どもたちを育てることを目的として、市内在住の子どもと、その保護者を対象に行っています。

農業体験では、季節の野菜を中心に、種まきから収穫まで一連の農作業が体験でき、稲作体験では、田植えから稲刈りまで稲作に関する様々な作業を体験できるのが特徴です。

また「昆虫教室」などを開催し、子どもたちが田んぼやその周辺の水源に生息する植物や

昆虫などに触れながら、その生態について学ぶ機会を設けています。

4月からおよそ半年間、月2回程度の活動を行い、秋には収穫感謝祭を盛大に開催し、皆で収穫の喜びを分かち合っています。



田植えのようす



稲刈りのようす

3. 環境学習推進体制の整備

市民一人ひとりが自ら学び、体験する機会を提供し、環境と自己との関わりについての理解を深めるなかで、環境に配慮した行動に結びつけていくことを目的とした講座や副教材の作成や配布を行っています。

(1) 大学との包括協定

資料6-1-2 (P.181~182)

市と大学の双方が持つ資産を相互に活用して、地域への貢献や双方の発展に資することを目的として平成21年に千葉商科大学及び和洋女子大学と包括協定を締結しました。

環境の分野においては、環境審議会及び廃棄物減量等推進審議会委員、インターンシップの受入、市民や学生を対象とした環境に関する講座などを行うこととしています。

平成30年度は、千葉商科大学の学生に対して「環境学習講師人材育成研修」を行い、研修を受講した学生が、小学校の4年生を対象とした環境学習を実施しました。

(2) 副教材の作成

小学生用の副教材として循環型社会への理解を深めるため、本市の取り組みや、日々の生活で心掛けることなどをわかりやすくまとめた「ごみ探偵団が行く！」を市内公立・私立の小学4年生全員を対象に配布しています。

(3) 環境学習情報の提供

市内の環境の現状等を紹介し、環境問題を身近な問題として関心を深めてもらうため、「環境のはなし」を発行しています。

この冊子は、環境学習の教材として活用することを目的とし、市内の小・中学校に配布しています。

第2節 環境活動への参加の促進

1. 概要

良好な環境を守り、未来に引き継いでいくためには、自ら環境について学ぶとともに環境活動の輪を拡げ、市民、事業者、市などあらゆる主体がそれぞれの役割を担いながら、協働による環境活動の推進を図ることが重要となっています。

本市では、市民や事業者への環境情報の提供のほか、環境に配慮した活動の促進のため、多くの機会を通じて啓発活動を行うとともに活動団体への支援等を行っています。また、各活動団体の交流や連携の促進に努めています。

2. 環境情報の提供

市民や事業者に広く環境情報を提供するため、「市川市環境白書」の発行、Webサイトの活用を図っています。

「市川市環境白書」は、環境基本計画に基づく施策や事業の進捗状況等、並びに環境に関するデータを紹介するもので、市民や事業者等が環境問題に取り組む際の基礎資料として活用されています。

Webサイトでは、環境に関する施策の進捗状況や市内の環境の現状、各種行事・イベント等について、最新の情報を提供しています。

3. 環境に配慮した活動の促進

近年、環境問題への対応は、市民・事業者・市がそれぞれの立場において、環境に配慮した活動に取り組むことが求められています。

(1) 市川市環境活動推進員による地球温暖化対策の推進、生活排水対策の啓発

市川市環境活動推進員は、市民に対し、エコライフ（環境にやさしい生活）への取り組みを促すため、日常生活における省エネ対策や、家庭でできる生活排水対策の周知・啓発を行っています。

主に、保育園や小学校、公民館などで行われる地域のイベントを通じて、身近なことから実践できるエコライフについての啓発活動に取り組んでおり、平成30年度は、32回、2,111人に対して啓発を行いました。



うちわ作りの様子



環境紙芝居読み聞かせの様子

(2) 環境の保全に関する協定

資料6-2-1 (P.183)

環境問題に対する事業者の対応は、自主管理活動の重要性が認識され、事業者自らが目標を設定し、環境への負荷の低減を継続的に実施するようになってきています。特に、温室効果ガスの排出抑制、廃棄物の減量及び資源化、並びに省資源対策が推進されています。

環境の保全に関する協定は、理念や手続きを示した環境保全協定と、温室効果ガスの排出抑制やグリーン購入の促進等の具体的な取り組みを示した細目協定からなっており、平成30年度末現在、60事業所と市が協定を締結しています。

本市は締結事業者に対し、環境保全に関する情報提供や情報交換の機会の提供、また、優れた取り組みの事業者を表彰し積極的に広報するなど、支援に取り組んでいます。

(3) 工場・事業場の緑化

工場・事業場の環境保全対策の1つとして、本市では市川市環境保全条例等で工場等緑化制度を定め、事業者に対して緑地に関する指導を行っています。また、緑化及び緑地の保全に関して積極的な事業者については、市川市と緑化協定を締結し敷地内の緑化に取り組んでいます。

■緑化状況 (平成31年3月31日現在)

三者協定	市条例等 (三者協定対象 事業場を除く)	二者協定	対象工場敷地面積	緑地面積	緑化率
72件	689件	12件	7,425,312㎡	998,044㎡	13.4%

(注)・三者協定: 県・市・事業者の三者締結(敷地 10,000㎡以上)

・市条例: 敷地 500㎡以上の工場、又は事業場

・二者協定: 市・事業者の二者締結

(4) 公害防止管理者制度

事業者自らが公害防止に取り組んでいくため、一定規模の特定工場においては、公害防止統括者や公害防止管理者等からなる組織を整備して公害防止に取り組むことが、「特定工場における公害防止組織に関する法律」に基づき義務付けられています。主な業務としては、公害発生施設で使用する燃料または原材料の検査、公害発生施設及び管理施設の維持管理並びにばい煙量の測定等の公害防止に関する技術的事項の管理とされています。

■公害防止管理者届出状況 (千葉県扱いの工場を除く) (平成31年3月31日現在)

業種	項目	対象 特定工場	公害 防止 統括者	公害防止管理者					
				水質関係				騒音 関係	振動 関係
				第一種	第二種	第三種	第四種		
鉄鋼業	4	4	4	0	0	0	0	2	1
非鉄金属	1	1	1	0	1	0	0	0	1
金属製品	4	4	4	0	0	0	0	5	2
計	9	9	9	0	1	0	0	7	4

(5) グリーン購入の取組

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、環境への負荷がより小さいものを購入するとともに、環境問題に積極的に取り組んでいる事業者から製品等を購入するなど、消費活動を通じて企業や事業者の環境への配慮活動を支援していくものです。

本市におけるグリーン購入の取り組みは、平成13年10月にグリーン購入に関する指針と平成13年度調達方針を策定したことに始まり、現在まで計画的に推進しています。

平成30年度は、21分類275品目を調達推進品目と定めて、調達する全ての商品をグリーン購入適合品とすることを目指し取り組みました。

調達推進品目21分類中、購入実績のあった19分類のうち「11 照明」が27.3%、「14 制

服・作業服等」が16.5%となっておりますが、16分類が95%を超える高い調達率となっており、そのうちの8分類が100%を達成し、平均調達率99.3%と、概ね目標を達成しました。

■分類別調達率年度比較

単位：%

分類番号	分類名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
1	紙類	99.0	99.0	98.7	99.7	99.8	99.3	
2	文具類	99.3	99.4	99.7	99.7	99.4	99.6	
3	オフィス家具等	100.0	99.9	99.9	99.8	99.8	99.7	
4	※画像機器	OA機器	99.1	99.7	99.6	99.9	99.9	99.6
5		電子計算機等			100.0	100.0	99.9	99.9
6		オフィス機器等			98.4	99.7	99.9	99.7
7	携帯電話	100.0	100.0	実績なし	実績なし	実績なし	実績なし	
8	家電製品	100.0	100.0	100.0	100.0	97.7	100.0	
9	エアコンディショナー等	100.0	89.5	100.0	100.0	100.0	100.0	
10	温水器等	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
11	照明	97.6	100.0	41.6	55.8	64.7	27.3	
12	自動車等	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
13	消火器	100.0	100.0	100.0	100.0	99.8	100.0	
14	制服・作業服	95.0	100.0	98.0	100.0	99.6	16.5	
15	インテリア・寝装寝具	93.7	100.0	93.5	100.0	100.0	99.5	
16	作業手袋	99.6	98.7	99.3	98.8	96.5	90.4	
17	その他繊維製品	100.0	100.0	100.0	100.0	84.0	100.0	
18	設備	実績なし	100.0	実績なし	実績なし	実績なし	実績なし	
19	防災備蓄用品	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	
20	公共工事	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	
21	役務	100.0	100.0	100.0	97.9	100.0	98.9	
平均調達率		99.0	99.0	98.8	99.7	99.8	99.3	

※平成27年度から「OA機器」が「画像機器等」「電子計算機等」「オフィス機器等」に分かれました

4. 協働による環境活動の推進

市民・事業者・行政が環境問題について協働で取り組む社会の実現を目指し、環境活動団体への支援を行うとともに、各種団体の交流や連携を図るため、さまざまな取り組みを行っています。

(1) いちかわ環境フェア

環境に配慮したライフスタイルを広く市民に啓発するため、毎年、いちかわ環境フェアを開催しています。

平成30年度は、ニッケコルトンプラザにおいて「いちかわ環境フェア2018」として開催しました。

来場者数は延べ約15,000人になりました。

[開催内容]

- ① 日時：平成30年6月3日（日）午前10時00分～午後3時30分
- ② 会場：ニッケコルトンプラザ
- ③ 主催：市川市
- ④ 共催：市川市地球温暖化対策推進協議会
- ⑤ 協力：ニッケ・タウンパートナーズ株式会社
- ⑥ テーマ：「謎とき発見！エコ未来」
- ⑦ 主なイベント内容：
 - 環境活動に取り組む市民団体・企業による環境展
 - 親子工作教室（冷却パック作り）
 - ステージイベント（エコ実験パフォーマンス、お天気実験キャスター体験等）
 - クイズラリー（市川市地球温暖化対策推進協議会主催）



「いちかわ環境フェア2018」の開催の様子

(2) 市民が活動できる場の提供

現在の環境問題は、私たちの生活と密接に関わりをもっていることから、市民、事業者、行政などの様々な主体が、それぞれの役割を担うことが必要となっています。

本市では、都市河川の汚濁を招く生活排水、ごみの減量・資源化、地球人としての行動が求められる地球温暖化対策などの各課題に対し、市民目線での啓発を行うため、環境活動推進員、じゅんかんパートナーの各制度を推進しています。

(3) 環境活動団体支援事業

資料 6-2-2 (P.184)

市民の自発的な環境保全活動を推進するため、環境活動団体の日頃の取り組みについての発表の場の提供など、さまざまな支援を行っています。

平成30年度は、6月の「いちかわ環境フェア 2018」や、1月～2月の「いちかわエコギャラリー」において活動報告の場を提供しました。

